

東日本大震災からの復興へ

—— 被災企業のゼロからのスタート ——

中小機構では、東日本大震災により被害を受けた中小企業等の早期の事業活動の再開のため、自治体と協力して仮設店舗、仮設工場等の施設を整備しています。



かしま福幸商店街

所在地：福島県南相馬市鹿島区西町88番地外
 入居者：原発被害を受けた鹿島、小高地区の被災事業者11店。
 食品、雑貨、理容、写真、コインランドリー等



森の花やさん・一條 玉枝様

森の花やさん (生花店)

「またお店を開いてお花を売りたい」

小高区が原発の警戒区域になってからは、これからどうなっていくだろう、もう小高には戻れないだろうか」と思い元気をなくしていました。お得意先の言葉に背をおされて、商売を再開したいと思うようになりました。店を開けることになり、うれしくてうれしくて「これでがんばれるかな」と思いました。お花は病気を癒し、元気も与えてくれます。お花を贈られる多くのお客さんが、「相手の方にとっても喜ばれたよ、ありがとう」とまた御礼にいらっしゃいます。その一言で私はこれからも頑張っていけると思っています。今までの努力を生かして、皆様に愛される花屋でありたいと思います。

高野理容室 (理容店)

「やるしかないと思い入居しました」

震災後家族は、3カ所に分かれて避難しました。今まで家族でやっていたので、自分ひとりでやっていけるかとても不安でした。でも収入もない状態が続いていたので、とにかく何かして生活を立てなければならぬ、やるしかないと思い入居しました。おじいちゃんの代からのお客さんや、馴染みのお客さんが来てくれるので本当にうれしいです。お客さんが集まり、話をするだけでお互いが励まされ、みんなの心の拠り所となっているようです。いずれ可能なら、住宅兼店舗を作ってそこで家族みんなで行っていただけたいなと思います。



高野理容室・高野 澄枝様



はる食堂・高橋 秀典様

はる食堂 (飲食店)

「このチャンスを生かして」

商工会の方から仮設店舗ができる話を聞いて、このチャンスをいかしてやってみたいと思いました。仕入先も自分で開拓して、リーズナブルな値段でお客様に提供できるようにがんばっています。「安くて美味しかったよ」といわれると、励みにもなりとてもうれしいです。お客様の反応を見ながらメニュー構成も工夫していきたいです。これからもお金もうけはともかく、来ていただいたお客さんに喜んでいただいて、店を続けられれば良いなと思っています。

中小機構ホームページに個別企業への詳細な取材内容を掲載しております。
<http://www.smrj.go.jp/>

(取材：平成 23 年 12 月 15 日)